

平成 25 年 4 月 17 日

報道機関各位

高齢者見守りアプリケーションの実証実験を開始

—スマートフォンを活用し、あんしん・安全を提供—

本学社会福祉学部（小川晃子研究室）および株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ（以下、ドコモ）は、社会福祉法人滝沢村社会福祉協議会の協力を得て、滝沢村内において 6 月 28 日（金）まで、スマートフォンを活用した「高齢者みまもり活動」の実証実験を下記のとおり実施します。

高齢者見守りに関する取り組みとして、これまで本学小川晃子研究室では、高齢者の能動的な見守り方法である「おげんき発信」の開発等の取り組みを、またドコモでは、らくらくホンベーシック 3 で利用できる安心見守りサービス「つながりほっとサポート」の提供等の取り組みを、それぞれで行ってまいりました。

本実証実験は、スマートフォンの普及・拡大を背景として本学及びドコモが開発したスマートフォン用高齢者見守りアプリケーション（以下、見守りアプリ）を滝沢村の方約 60 名に利用していただき、地域との「つながりづくり」「みまもり活動」に有効活用する方法を検証のため実施するものです。

今後も岩手県立大学及びドコモは、ICT（情報通信技術）を活用した新たな社会サービスの実現に向けて検討を進めてまいります。

ご取材についてよろしく申し上げます。

記

■「見守りアプリ」の実証実験概要

実施主体	岩手県立大学(社会福祉学部 小川晃子研究室)・ドコモ 【協力】滝沢村社会福祉協議会	
期間	平成25年(2013年)4月17日(水)～同年6月28日(金)予定	
実施場所	岩手県岩手郡滝沢村	
対象者	見守られる側	岩手県岩手郡滝沢村にお住まいの高齢者の方
	見守る側	滝沢村社会福祉協議会職員、滝沢村民生委員、近隣住民等の方々
対象人数	見守られる側、見守る側 それぞれ約30名	
内容	「見守りアプリ」から見守りに関するメールが自動でみまもる側の方へ送信されます。メールの内容を確認するだけで、生活の様子を確認することができます。	

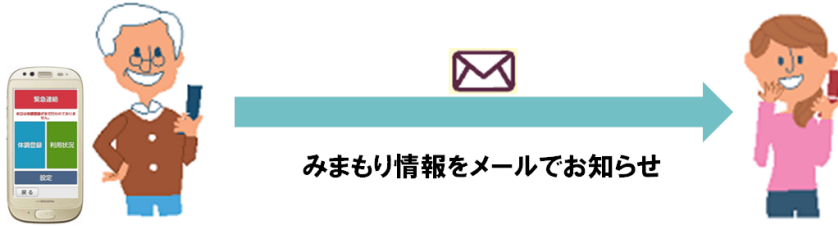
※サービス概要の詳細は、別紙をご覧ください。

<本件に関するお問い合わせ先> 岩手県立大学社会福祉学部 教授 小川晃子

電話 019-694-3343

別紙

【見守り内容(イメージ)】



- 【見守られる側の方】**
- ・日常通りスマートフォンを利用する。
 - ・1日に1回、その日の体調を登録する。
 - ・何かあった場合には、みまもる側の方へ連絡する。

- 1. 元気であることをお知らせ**
- ①1日に1回、定期的に歩数やスマートフォンの利用有無等のケータイ利用状況をお知らせ
 - ②その日はじめてスマートフォンが利用されたとき
 - ③歩数計の歩数が毎日の目標値を超えたとき
- 2. 異変が起きていることをお知らせ**
- ①体調が「悪い」が登録されたとき
 - ②一定期間スマートフォンが利用されなかったとき
 - ③電池残量が少なくなったとき
 - ④スマートフォンで大きな衝撃を検知したとき
 - ⑤緊急連絡機能が利用されたとき

- 【見守る側の方】**
- ・お知らせされる日々の様子をメールで確認する
 - ・気にかかる時はみまもる側の方へ連絡する。

【見守りアプリイメージ】

アプリトップ画面



受信メールイメージ

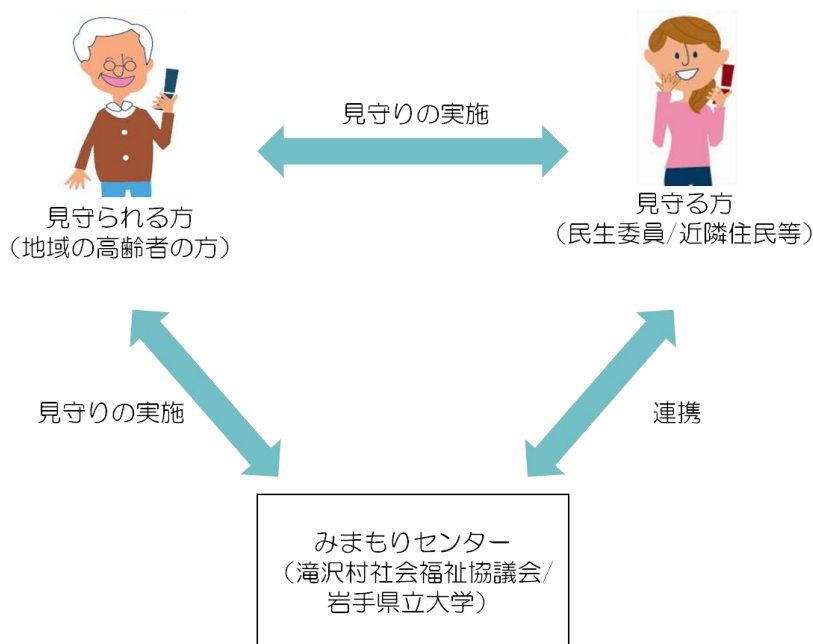
ドコモ太郎さんのお元気情報

今日のお元気情報
 04月08日15時時点
 歩数: 0歩
 外出有無: あり
 ケータイ利用: あり
 体調: 元気
 電池残量: 56%

最近のお元気情報

日にち	歩数	外出	初回利用	体調
4/7	0歩	なし	1:38	未登録
4/6	2017歩	なし	0:42	元気
4/5	3047歩	あり	7:12	元気
4/4	5004歩	あり	0:50	元気
4/3	4195歩	あり	0:05	悪い
4/2	2292歩	あり	7:14	元気
4/1	2396歩	あり	0:12	元気

【見守り体制イメージ】



【「見守りアプリ」で利用できる機能について】

利用状況通知	スマートフォンの利用状況(歩数計の歩数、スマートフォンの利用有無、電池残量等)を見守る側へ自動でお知らせすることができる
体調登録	高齢者の方が能動的にその日の体調(良い・普通・悪い)を登録し、見守る側へ通知することができる
緊急連絡(ワンタッチ発信)	見守りアプリに予め登録した電話番号にワンタッチで電話を発信することができる
転倒検知	スマートフォンの加速度センサーで大きな衝撃を検知した場合に、高齢者の方が転んだかもしれないと判定し、見守る側の方へ通知することができる
利用状況振り返り	高齢者の方が自身の生活の様子(歩数計の歩数や日々の体調等)を振り返ることができる

報道発表資料に記載された情報は、発表日現在のものです。仕様、サービス内容、お問い合わせ先などの内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。なお最新の情報については、お問い合わせ先へご連絡ください。

<参考資料>

「おげんき発信」とは

平成15年度から岩手県立大学の社会福祉学部とソフトウェア情報学部の教員・学生によるプロジェクトが開発した、高齢者が「今日も元気です!」としらせる、能動型の安否確認システムです。

現在は、岩手県社会福祉協議会と青森県社会福祉協議会の事業として、市町村社会福祉協議会をみまもりセンターとして運営されています。

この仕組みは、高齢者等が家庭用の電話機から音声サーバに電話をかけ、その日の体調を番号でしらせるものです。高齢者からの発信がない場合は、みまもりセンターが高齢者に電話をかけたり、協力者に訪問を依頼します。これにより、1日に1回確実な安否確認ができるので、孤立死を防ぐことができます。1日1通話の電話代のみで、確実な安否確認ができるところに特徴があります。

平成22年度から3年間は、「ICT（情報通信技術）を活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトを、国の研究費の採択を受け、滝沢村・盛岡市・宮古市川井をフィールドで実施しています。これは、おげんき発信を基盤として、コミュニティごとに互助機能を組織化する実践的な取り組みです。

また、被災地においては、仮設住宅のサポートセンターをみまもりセンターとし、フリーダイヤルのおげんき発信と併せて、血圧測定や電気使用量をみまもり情報として活用する取り組みも展開しています。

おげんき発信の概要

